

平成30年度第2回印西市ふるさとづくり運営会議 会議録

- 1 開催日時 平成31年1月28日(月)
午後1時30分から午後3時30分まで
- 2 開催場所 印西市役所 附属棟24・25会議室
- 3 出席者 高橋定一委員、宮本律子委員、西井貴生委員、
樋口祥明委員、涌井佐和子委員、桑田佳雄委員
- 4 欠席者 石橋篤委員
- 5 事務局 シティプロモーション課 林課長、篠原係長
清水主査、星野主査
- 6 傍聴者 1名
- 7 報告

(1) 平成30年度ふるさとづくり運営基金活用状況について

(2) 平成30年度シティプロモーションの実施状況について

8 議 事

(1) 平成31年度ふるさとづくり運営基金活用事業について

9 議 事 録 (要点筆記)

1 開会

2 座長あいさつ

3 報告

(1) 「平成30年度ふるさとづくり運営基金活用状況について」

【事務局より説明】

議 長 事務局より今年度のふるさとづくり運営基金の活用についての説明がありました。委員の皆様から何かご質問等ございましたらお願いします。

【質問なし】

(2) 「平成30年度シティプロモーションの実施状況について」

【事務局より説明】

議 長 事務局より平成30年度シティプロモーションの実施状況につ

いての説明がありました。委員の皆様から何かご質問等ございましたらお願いします。

【質問なし】

議長 よろしいでしょうか。それでは、3の報告については、これで終わりたいと思います。

4 議事

(1) 「平成31年度ふるさとづくり運営基金活用事業について」

【事務局より説明】

議長 ただいま、事務局より説明がありましたが、平成31年度の基金活用事業への基金充当見込額につきましては、中学生海外派遣研修の499万3千円とシティプロモーションに要する経費の1,863万4千円ということでございます。国際交流事業の中学生海外派遣研修につきましては、既に採択されておりますので、シティプロモーションに要する経費につきまして、適当か否かを委員の皆様からご意見をいただきたいということでございます。

シティプロモーションに要する経費は、3年間の債務負担行為を設定し、シティプロモーションを効果的に推進していくための経費ということにつきまして、委員の皆様からご質問等ございましたら、お願いします。

委員 この平成31年度の予算を了承すると自動的に平成32年度・33年度も了承することになるのですか。

事務局 そのように考えております。

委員 毎年金額が500万円ずつ位上がっているのは何か理由がありますか。

事務局 毎年、3年間においてそれぞれ設計を出しております。初年度につきましては、ホームページの作成ですとか啓発物資の作成など、作る作業を中心にやっというと考えて設計を行っております。

すけれども、3年目に順を追っていくにしたがって、広告費のビジョン放映、アプリを使ったPRの実施を設計すると金額が年々増えていく状況になっております。

委員 3年間で7千万円を超えていて、詳細も何も示されないと金額に対して判断する材料がないと思うのですが。

事務局 予算計上したときに設計書を作成しますが、入札の基となる資料となりますので、金額入りの設計書を出すことがご提示できず苦しいところがございます。内容ごとの金額は積み上げておりますけれども、このような形になっております。

委員 もう少し、内容や計画について、ご提示いただかないと判断のしようがないかなと思います。もし、ここで否決された場合、どうされるのか、市のお金で実施するのですか。充当しなければ実施しないという考えでしょうか。

事務局 会議の結果を基に市長が決定しますが、金額をご提示できないのは申し訳なく思っておりますけれども、市のプロモーションは実施したいと思っております。

委員 なぜ一般財源ではなく基金を取り崩すのを前提するかわからないなと思いました。なぜ基金を充当するのか理由を伺いたい。金額が大きいですし、シティプロモーションについて、シビックプライドを醸成するということがあったと思います。そのところをどうしていくのかについて、今のご説明ですとホームページの作成ですとか、何かがつながるのだと思いますが、プロモーションビデオを作るのに1千万円かかるのはしかたがないのかもしれないですけれども、それだけのお金をかけるということが、費用対効果として考えたときに運営基金の充当事業であるかどうか考えを伺いたいと思います。

事務局 まず、臨時経費か経常経費か考えたときに3年間の長い期間になってしまいますが、特別にプロモーションをしたいと考えております。それ以降は大きなプロモーションは考えておりませんの

で、今回、臨時的経費の意味合いで実施させていただきたいと考えております。シビックプライドは最終目標で、平成30年度は印西市を全国的に知ってもらい、そのほかに移住・定住もごさいますので、順を追って作っていきたいと考えております。

委員 今の説明ですと、臨時経費はこの基金を取り崩すというふうに聞こえるのですけれども、実際はそうではなくて臨時的に実施することも含めて市の長期計画の中で具体的なことが出てくると思うのですが、単純に臨時だからということではないと思うし、施策の中でやるべき事業であれば、もっと内容を詰めてから基金を使うべきかどうかというところにかかる気がします。全額にするのか、割合にするのか、中身がわかって、基金を充てるべき判断ができる段階でここにかかる気がするのですけれども。

事務局 事業者をプロポーザルで選定したいと考えておりますが、その中で、設計書はこちらの想定で作成しております。それを出してしまうと、事業者それぞれの強みが出せるプロポーザルにならないというのがございますけれども、今年度のコマーシャルは約1千万円かかっておりますが、効果を考えると業界の中では安いと言われております。今回20代、30代の女性をメインターゲットとしておりましたが、今度はそれ以外の世代も対象としてシビックプライドを醸成して、いただいて移住プラス定住を求めています。印西市をネットで調べたときに今の市のホームページでは魅力が伝わらないのでシティプロモーション専用のホームページや紙ベースのものを作成する。選定された会社にもよりますが、2年目以降は動画の制作・活用を考えております。今年度、実施してみて、やはり地上波が強いということで、印西市のCMを地上波で放映したいと考えている設計でございますが、もっといい提案があれば、それを採用したいと考えております。

委員 公募をして、ある程度内容を詰めて実際やる状況の中で基金を充てるかの判断する順番でもいいのではないですか。この場で決

めると言われても判断できないですね。

事務局 予算計上のあとにということですか。

委員 そうです。否決されたらやらないのですかと聞いたのは、実際やるはずのものを基金を使ったのであれば市のお金としては余裕がでてきて、市民に戻るということでよいですけれども、今の段階でこの人数でOKですとは少なくとも企業では絶対言えないです。

事務局 もしも、不採用になったとしても市長に報告させていただき、判断となりますが、ふるさとづくり運営基金の活用ですけれども、原資が1億5千万円ほどになっております。いつ使うのかというのがございますけれども、今、日本中で人口減少傾向がある中で印西市の人口は増えており、先ほどからシビックプライドという言葉も出ておりますが、印西のふるさとを愛していただいて、そこで醸成していくことがふるさとづくり運営基金の目的だと思っております、それを使いシティプロモーションをしていくことが市の考えでございますので、よろしく願いいたします。

議長 基金を充当してはいけないとは言っていないで、判断ができないと言っている訳で、判断ができる状況になってから協議すればいいのではないのでしょうかということを申し上げている訳です。市制施行10周年、20周年で基金を使って、30周年でも何かやると思いますが、そうした場合に40周年はどうするのか、長期的にどう考えているか以前にも提示をお願いしておりますが、その中で7千万円というのはトータルで見えていかないと評価できないのではないかと思います。いいとは言えないというのが現状です。

事務局 この中で判断するというのは難しいと思いますが、事業について、検討を行っていただきたいと思えます。運営会議で基金がなくなってしまうても良いのかという意見が出ましたということを経済課に伝えたところ、ふるさとづくり運営基金は、元々は63年のふるさと創生事業から積み立ててきたものです。30周年、40周年等の事業が決まっていれば、それに向かって積み立てていきま

すけれども、ふるさとづくり運営基金は流動的であり、ふるさとづくり運営寄附金が28年度60万円、29年度63万円、30年度70万円で少しずつ上がってきてはいますが、このままいくと基金がなくなることを財政課と協議しまして、基金の使い道について、市長にも相談したところ、目的が達成できるのであれば使いきってもいいのではないかということでございました。30周年、40周年記念事業はどうするのかにつきましては、一般財源で対応するというところでございました。現状ではシティプロモーションに使うことが良いのではと市内ではオーソライズされております。

事務局 ふるさとづくり運営基金ですので、私どもがシティプロモーション課としてふるさとづくりをしていくうえで、この事業を実施することが使命だと考えております。また、将来の事業に関しては、市制30周年、40周年記念事業につきましては、まだ決定しておりませんので、今はまだ考えなくてよいということで私どもがやるべきものに基金を充当したいということでございます。

委員 ふるさとづくり運営基金なのでPRだけを実施するための基金ではない気がします。ふるさとづくりをどのように考えていく中で、PR、それから実際にふるさとを良くしていったり住みやすくしていくところを含めて、どのようにお金を使っていくべきか大きな計画の中で判断してやっていく方が市の事業で何をするかとなったときに、当初は3億円でずっと貯めて使うことは悪いことではないので、基金の使う方向性が変わってきていて今までは少しずつ使っていたのを方向転換したので全体的にどうやっていくのか説明がないまま3年間で7千万円使うというのが引っかかるし、内訳もわからないところが引っかかっている。計画の中でどうやっていくのか明確にわかればそれなりの判断ができるのではないかと思います。

事務局 そうしますと、入札終わって、事業内容が決まった後という

ことでしょうか。

委員　それもひとつです。ある程度、内容が決まった後でかけていただいてもいいです。例えば、3年間はこの事業を充当して、現在の残額がどのくらいで、それ以外の計画で、5年後位にこの事業みたいな感じでお示ししていただいた方が会議としては中身があるのではないかと思います。

事務局　平成27年度に策定した「シティセールスプラン」、平成29年度末に策定した「シティセールスプラン実施計画」をもってやらせていただいております。今後、臨時で金額の大きいもの予定はございません。中学生海外派遣につきましては、3年終りましたら一般財源で対応します。シティプロモーションにつきましても3年基金を使わせていただいたあとは基金を使う予定はございません。今のところ30周年までは考えておりません。基金残高が8千万円位になりますが、それ以降は今のところ、ございません。

委員　ほかの世代にPRは何かございますか。

事務局　今年度は20代、30代を中心に行ってきましたが、来年度から3年間は多年代のすべての方に印西市を知ってもらい、愛していただこうと考えております。SNSだけではなく冊子等を使ったPRやイベントも実施したいと考えております。

委員　資料3の海外派遣研修だと市内に住んでいる子どもたちに直接還元されるものにお金を使っているけど、シティプロモーション支援業務だとあまり市民の方に還元されているイメージが沸かないと感じます。もうひとつはある年代だけに抜けているというか、そういうイメージなのにこれだけお金がかかる。印西市に住んでいる人に説明がつくようにやっていく必要があると思いました。例えば、映像が1千万かかるのはわかりますが、毎年作る必要があるのかなど、もう少し市民の方に還元するような計画ではないのだなと思いました。その辺を教えてください。

事務局 シティプロモーションは難しく、シビックプライドを持ってもらうには、印西市に住んでいいですねと言われることで市民のふるさと意識の醸成やシビックプライドの醸成につながると考えておりますので、まず市外にPRすることで、醸成につながっていくと考えております。今回CMを作って、SNSで発信しているのが市内の方が多く、自分の住んでいる市がこんなCM作ったみたいな感じで、市外の方へプロモーションとシビックプライドの醸成につながっていると考えております。今年度は、シティセールスプランにあるように20代、30代をメインターゲットにプロモーションを行いました。来年度からは全方向に向けてプロモーションを行っていかうと考えております

委員 自分たちが市の良いものを発信できるようにと仰ってありましたけれども、市の何が良いものなのか、どのように考えておりますか。

事務局 印西市の何が良いのかをとりまとめた冊子を作ってPRして市民の方にも再認識して、発信していただければと考えております。

委員 市の何がいいのか、それを誰が決めるのか、冊子を作る過程はどのようなになるのでしょうか。

事務局 何が良いのか、人それぞれだと思います。年代や性別でも違うと思いますので、今後検討していきたいと考えております。

委員 ぜひ、市民の中から伝えるような形をとっていただきたいと思います。自分が関わったものの熱量は違いますし、そのためにシティプロモーション課が動いていただきたいと思っています。

委員 ふるさとづくり運営基金をどのように使うのか、シティプロモーションに8千万円使うのが気にかかっている、ふるさとづくりはPRだけではなくて、住みよさランキング7年連続1位ですけれども、住みたいまちにしていくためにどうすればいいのかを含めてやらなければいけないことがたくさんあって、市の計画の中にもあると思います。その中で、シティセールスだけという

のが違和感があります。ここの部分は基金を使うとか、そういう方が基金の使い方としてはいいような気がします、それについて、どう考えていますか。

事務局 財政課と相談した時は、そういう視点はなかったもので、考えなければならないと気づかされました。ただ、シティプロモーションの支援業務としては、基金でしかできないというところもありますので、それが住みやすいまちにもつながると思っております。

事務局 実際、住みよくするための施策は、企画政策課をはじめ、全庁で行っておりますが、シティプロモーション課ということで、シティプロモーションに特化した事業を実施したいということでございます。ふるさとづくり運営基金充当がそれだけで良いのかということもございますが、住みよくするための施策は経常的な事業で実施しております、シティプロモーション自体が臨時ということもございますが、運営基金はここに充てるということもございます。

事務局 各課が実施している事業は、一般財源もありますけれども、国や県から交付金等をいただいて経常的に行っております。

委員 経常的にやることは一般財源ですけれども、ふるさとづくりで基盤なところで今までやってきたものだけではなく、もっとあるのではということを含めて、他にあるものを基金を使って、広告PRをうまくバランスをとってやらなくてはいけない気がします。そこがよくわからない状況で、1億何千万円使いますというのが違和感があります。PRするにはお金がかかるのは理解できますけど、バランスが悪いのではないかと思います。シティプロモーション基金ではないので、ふるさとづくり運営基金として、シティプロモーションとそれ以外の部分をバランスの中で実施して、経常的にやっていないもので市民のためになる施策等が本当にないのかなと気になっております。それを実施し

ようとしたときに残額が減ってしまっていて充てようがない状況になったらどうなのかなと思います。

委員 予算の流れを教えてください。

事務局 仮にこちらで事業採択いただきますと市長に答申いたしまして、市長が予算計上するか否かの判断をいたします。予算計上するとなりましたら、議会に上程します。議会の議決後、新年度に公募型プロポーザルの実施、市でも設計書を作成しますが、一番良い提案をした事業者が選定されまして、その内容に従いまして契約をいたします。3月に議会、4月か5月にプロポーザルの実施、契約を6月中という流れで進めていけたらと考えております。

委員 議会では内容の説明はされるのでしょうか。

事務局 予算常任委員会という議員全員ではなく、予算のための委員会で質問されればお答えしております。

委員 今、ここで否決されたらどうされますか。

事務局 ここで否決されました旨を市長に答申いたします。最終的に市長に予算計上するか否かの判断をしていただくということになります。上程となった場合は、一般財源か基金か市長に判断していただくということでございます。

委員 プロポーザルの審査基準と審査委員はどういう構成でしょうか。

事務局 プロポーザルの評価表については、新年度、発注の決裁後、プロポーザル審査委員会を開催しまして、プロポーザルの評定をいたします。基本的には1次審査で企画提案書の書類審査、2次審査でヒアリングを実施しております。今年度は4社ございまして、1次審査で1社が落選、3社が2次審査のヒアリングを実施しております。公示をかけるときに仕様書に従いまして評価表を作成しますが、概ね企画書の内容がどうかということとプレゼン能力で評価を行い、審査員は関係する部長、課長

を中心に審査委員会を設けさせていただいております。

議長 他にございますか。それでは、挙手による多数決でお諮りいたします。平成31年度当初予算のふるさとづくり運営基金の基金活用事業といたしまして、シティプロモーションを効果的に推進していくための3年度分の経費につきまして賛成の方は挙手をお願いいたします。

【賛成3名・反対2名】

議長 それでは、ただ今の委員の皆様のご意見では、シティプロモーションに要する経費の平成31年度から平成33年度にかけて債務負担行為を設定することにつきまして、ふるさとづくりにふさわしい3名、ふさわしくない2名ということでした。

つきましては、その旨を市長に答申いたします。さらに今回は、多数の意見がでておりますので、それにつきましても市長に十分伝えていただくようお願いしたいと思います。

以上で議題は全て終了となりましたので、只今をもちまして、議長の任を解かせていただきます。委員の皆様におかれましては、議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。それでは進行を事務局にお返しします。

5 その他

事務局 高橋座長、ありがとうございました。それでは、その他でございしますが、会議全体を通しまして、質問等ございましたらお願いいたします。

【質問等なし】

事務局 よろしいでしょうか。資料4をご覧ください。ほとんどの皆様の任期が7月31日までとなっております。皆様の人事異動等あると思いますが、各委員の皆様ご連絡させていただきまして、今後どうするか相談させていただきたいと思います。それにつきましては、書面等考えておりますので、よろしくお願ひしたいと思いま

す。

6 閉会

事務局 よろしいでしょうか。それでは以上をもちまして、平成30年度第2回ふるさとづくり運営会議を終了いたします。長時間に亘り、お疲れ様でございました。ありがとうございました。

平成30年度第2回印西市ふるさとづくり運営会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

平成31年2月18日

印西市ふるさとづくり運営会議

委員 涌井 佐和子

委員 桑田 佳雄